

華麗な舞いで魅了するステージ

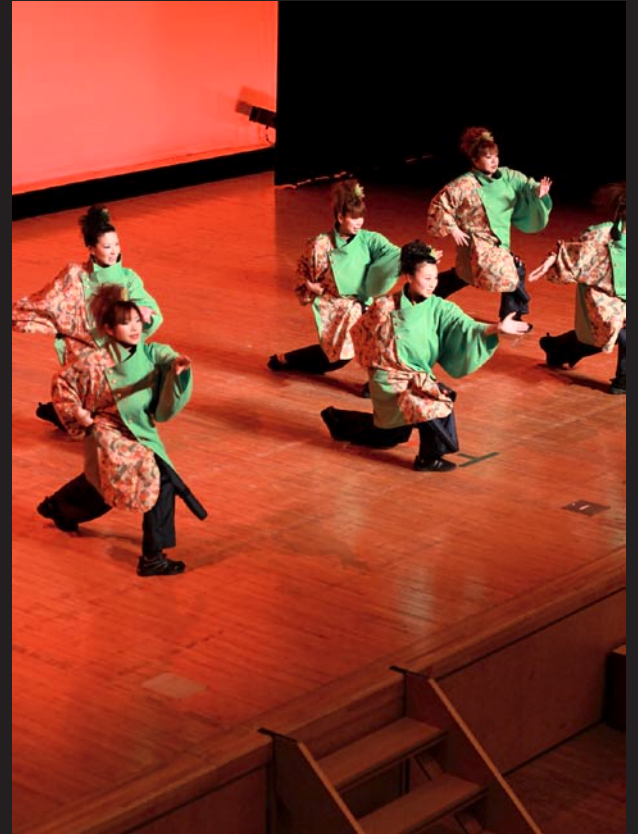
—自分たちの果実を追い求めて—



よさこいのステージは、勇壮で華麗。

両チームは、なかどまりまつりはもちろんのこと、各種イベントや、町民祭、施設での慰問、結婚式などに出演し、夢幻天舞に至ってはつがる市の「馬市まつり」や、五所川原市の「十三湖高原まつり」にも出演する。

衣装、楽曲、鳴子、体、表情といったすべてのパーツを使って、美しさと勇ましさが同居するその演舞に、観客は惜しめない拍手を贈っている。



【なかどまり町民祭小泊会場】



【鈴木清氏県褒章受賞をお祝いする会】





【駅ナカにぎわい空間出発式】



【ことまり春物語ツアー交流会】



【ことまり新鮮朝市夏まつり】



【高齢者生活福祉センター「夕涼み会」】



【チャリティーふるさと交流カラオケ大会】

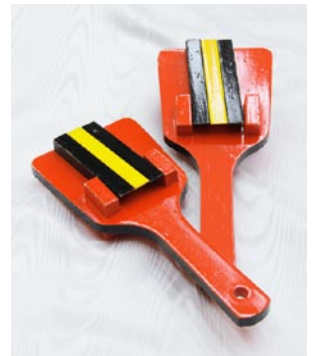


【今泉賽の河原例大祭】

よさこいのキーアイテム

なるこ
「鳴子」

よさこい踊りに使われる「鳴子」。これは、元々農作物を荒らす鳥獣を駆除するために使われたものだが、高知県の「よさこい祭り」で演舞に使われていることもあり、現在はよさこいを使用する「音を出す道具」としての認知度が高い。踊り手たちの躍動によって出される鳴子の音は、よさこいに欠かせないものとなっている。



よさこいが担うまつりの盛り上げ

ねぶた運行や歌謡ショー、海上相撲や船こぎ競争など、多彩な催しでその年一番の盛り上がりを見せる「なかどまりまつり」。中でも、よさこいが担うまつり盛り上げの役割は大きい。

小泊地区や下前地区では、今年も小泊権現漁火会がプログラムに組み込まれ、地元での演舞が披露される。小泊地域のまつりには必ずといっていいほど出演し、すっかりおなじみとなっているようで、同会に対する高い期待がうかがえる。

一方、中里地域では「よさこい中里」と称し、ゲストも含めて多数のチームが



参加。夜間の最も盛り上がる時間帯で演舞が繰り広げられる。帰省客など大勢の観客が集まるパルナス駐車場の特設会場は、この「よさこい中里」の時間帯にピークを迎える。中里地域のまつりにとって、彼らは主役なのだ。

合併後、なかどまりまつりは一時ねぶたの運行がなかったり、その時々によって内容を変えたりして開催されてきたが、よさこいは全8回すべてで行われている。いかに、よさこいの盛り上げが大きな役割を担っているかが分かる事実だ。



夢幻天舞

■ステージに上がるときはどんな感じ？

テンションが上がる。ステージ上ではやっぱり力が入っている。よく見せたいということがあるので。練習より本番の方が何倍も疲れる。

■曲はオリジナルですが、今までの曲を振り返ってどうですか？

すごくいい。イメージどおり。作曲者がテーマ、イメージをちゃんと具現化してくれている。私たちの要求に完全に応えてくれる。

■唯一の男性がいますが

お父さんみたい。男の人が入って踊りに力強さが出た。男性大歓迎なので、もっと入ってほしい。

■仕事や子育てがあり、都合をつけるのに苦労すると思いますが

すべて大変。家族や職場の理解・理解は不可欠。土・日が仕事の人は、イベント時に休みをもらわないといけないので。

■まつりへの意気込みを

まつりでは見ている人を感動させたい。アンコールかかるぐらいの踊りを見せ「やっぱり夢幻天舞だな」と言われるようにしたい。みんなに「夢幻天舞」の名前を覚えてもらえるよう精一杯踊る。

よさこいにかける思いを語っていただきました

小泊権現漁火会

■私生活や仕事との両立は大変じゃないですか？

別に変だとは思わない。家族も「行ってこい」という。理解がある。

■うまくするための工夫は？

まずは曲をしっかり覚えること。子どもたちは学校でも練習しているみたい(実際に、運動会の前日に校庭で練習したことも)。

■よさこいの魅力とは？

ダンスと違ってカッコいい。鳴子を持って踊るのもまたいい。

■曲はどんな感じのものが好き？

演歌調じゃないもの。子どもたちがメンバーにいたので、彼らが好みそうなものを選ぶ。

■まつりでは、チームのどんなところを見てほしい？

今年の新曲「桜小町」をお披露目する。この曲は物語みたいなきれいな歌で、振り付けもカッコいい。今までにない明るい雰囲気。曲だし、衣装も明るいので、注目です。何よりも、みんなが笑顔で踊っているところを見てほしい。

■まつりではどんな演舞を？

迫力ある、キレのある動きをがんばりたい。あまり気負わずに、まつりを楽しむつもりでやる。



両チームが最も重要なステージと位置づける「なかどまりまつり」がやってくる。

この日のために練習に励み、華麗な舞いを披露するにはどうすればいいか、どうすれば見ている人たちを感動させられるか、夢幻天舞、小泊権現漁火会とも考えてきたに違いない。

まつりでは、夢幻天舞は「北の海神」^{わたつみ}「五穀豊穡」^{ごこくほうじ}の2曲を踊る。「中里、小泊のいい特徴が歌詞に入っている」という。去年、まつりでお披露目した「北の海神」は、小泊の権現太鼓を取り入れた楽曲で、歌の冒頭ではこうナレーションされる。

—日本海の荒れ狂う波と共に生きる津軽の大地
権現太鼓を打ち鳴らし 大漁願って 夢幻天舞が
舞い踊る！—

今年の夢幻天舞は、メンバーも言っていたが、楽曲の歌詞にも注目だ。

一方、小泊権現漁火会は、持ち前の笑顔あふれるステージを約束する。今年の演目は「桜小町」と「小泊大漁祝い節」。このうち「桜小町」は、今年の新曲だ。取材中の練習では、特に新曲を中心に練習し

まつりがやってくる

—いざ、出陣！—

ていた。高齢者生活福祉センターの「夕涼み会」でお披露目したが、桜色の明るい衣装と踊り、曲がマッチしていて、観客から大きな拍手をもらっていた。中里での出演だけでなく、小泊、下前地区での出演もあり、まつり期間中は忙しい日々を送ることになるが、「笑顔」だけは忘れずにステージを披露してほしい。

なかどまりまつりは、8月10～11日の中里地域を皮切りに、14日に小泊地区、15日下前地区（神事は16日）と行われる。

夜空を焦がす、熱い夏まつりのステージで、夢幻天舞、小泊権現漁火会は、鳴子を打ち鳴らし、今年も翔び、舞う。

